



響

ひびき

Vol.3



真ん中にある。ということ。

Hibiki vol.3 「真ん中に」

✎ “授業から学ぶ”

- ・ 指導内容の違う子供が同時に学ぶための工夫
- ・ 子供の姿を真ん中にしたゲームや場の工夫

✎ “研修会の窓”

- ・ なりたい教師像を真ん中に語り合う
- ・ CAN-DOを真ん中においた指導と評価

✎ “考える部屋”

- ・ 「振り返りを促すひとこと」を考える
- ・ 夏休み明けに向けた心配り

✎ “SSWの笑門来福”

- ・ スクールソーシャルワーカーは何処にいるの？
- ・ 笑顔で元気アップ講座のご案内

✎ “生涯学習課より”

四人の真ん中にある一枚のアートカード。この一枚の絵から、感じたことを自由に語り合う時間。カードはその場で向きをくるくると動かされて、あっちを向いたりこっちを向いたりするけれど、決してその場所からは動かない。いつも、真ん中にある。ずっと、真ん中にある。

当たり前のように見えるこの光景に、何気ない、互いの心配りが見えてくる。四人が四人とも大切にしていることを真ん中に置いて、いつもそこから始めている。



授業から学ぶ



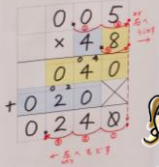
小学校・自情障
算数・理科
自立活動



指導内容の違う子供が同時に学ぶための工夫

～子供の実態を真ん中に「わたり」と「ずらし」を取り入れて～

特別支援学級では、複数の学年や指導内容の違う子供が同時に学ぶ状況が多くあります。A先生は、子供を「わたり」ながら必要な支援が行えるように、子供が一人で学習する場面と、教師と一緒に学習する場面を意図的に「ずらし」て設定しました。

5 学年・Bさん 理科「種子の発芽」	A 先生	5 学年・Cさん 算数「小数のかけ算」
自立活動(7分) 「ビジョントレーニング」  ・眼球トレーニング ・点つなぎ		
課題把握(5分) 「インゲンマメの種子の発芽にはほどよい温度が必要かどうか、気づいたことをまとめよう」	時間や問題数が調整できるから、自分のペースで取り組めるよ！	復習(5分) ・九九の練習問題を解く。(タブレット) 
個人追究(6分) ・温度条件を変えて水に浸した種子の様子を観察する。 ・学習帳に様子を記入したり、タブレットで写真を撮ったりする。	学習帳に手順やまとめる表がかかっているから、自分で進められるよ。写真を撮るのも得意だよ！	課題把握(6分) 「小数点の位置に気をつけながら小数のかけ算の筆算の問題を正しく解いていこう」
まとめ(7分) ・タブレットで観察の結果や考察を記入したり、写真を貼り付けたりしてまとめる。	やり方カードが目の前に掲示されているから、それを確認しながらできるよ！	個人追究(7分) ・スモールステップの問題プリントで筆算の問題を解く。 ・自分で答え合わせをし、間違えた問題は解き直す。
発表練習(5分) ・本時の観察の結果や考察をCさんに発表する練習をする。		まとめ(5分) ・本時の取り組みをふり返り、できるようになったことを確認する。
発表(5分) ・Cさんに発表する。 ・Bさんの発表を聞き、思ったことを伝える。		
自立活動(10分)	「福笑い」 ・ルールを確認し、自分のめあてを決める。 ・二人で協力しながら、福笑いの顔を完成させる。 ・自分のめあてに対して、ふり返りシートを書く。	

二人に共通する自立活動の内容（『人間関係の形成』『コミュニケーション』）から、二人で協力しながら行うことができる自立活動を計画しました。

個人追究の際に、子供が自分で学習量を調整する、手順表で見通しをもつ、やり方を掲示で確認するなど、一人でも学習が進められるように、子供の実態を真ん中に据えて、教材や場の設定を工夫する大切さがわかりますね。



授業から学ぶ

(小学校・体育)
「体づくり運動」
「ボール運動
(ネット型)」



子供の姿を真ん中にしたゲームや場の工夫 ～願いや問いが生まれる工夫～

先生方は、子供のどのような姿を目指してゲームや場の工夫をしていますか。目の前の子供たちが自らの願いや問いを基に学んでいく姿を目指したA小学校・B小学校の授業を紹介します。

ゲームや場の工夫

体力や技能の程度にかかわらず、全ての子供たちが取り組みやすいように、場づくり、活動内容、道具等に工夫をしていました。

A 小学校の工夫

体づくり運動 (多様な動きをつくる運動)

- ① やってみたい、楽しそうと感じるグラウンド
キャニオン (マットと登りロープを使った
溪谷) という場。
- ② 全ての子どもが
もう少しできそう、
友の支えがあればでき
そうと思える運動。
- ③ 全員が反対のマット
に渡る、一人一人が
ロープで移動する、
床に足が着いたら二人が戻るなど、達成す
るためには全員が協力して、考えを伝え合
う必要感が生まれる課題やルールの設定。



B 小学校の工夫 (複式授業)

ボール運動 (ネット型)

- ① 返球する前に自陣でつないだ回数が得点に
なるルール。
・ ボール操作とボールを
持たない時の動きに
課題を見付けやすい。
- ② 軽くて柔らかいボール
を使用。
・ 怖さや痛さの軽減。
・ 滞空時間が長くなる
ことで落下地点に動
くまでの時間をつくる。
- ③ 子供の体力や技能の程度を踏まえて、数歩で
ボールにとどくコート広さ。



工夫されたゲームや場で運動することで、子供たちに願いや問いが生まれます。

願い

谷に落ちないように
向こう側へ渡り
たいな。全員が向
こうのマットに渡
りたいな。



願い

みんなで協力して
得点をとりたいな。
ボールを落とさず
に、相手コートに
返したいな。



どうしたら、全員が渡れるの
かな? どうやって友達を支え
れば渡れそうかな?

問い

問い

ボールを相手コートに返すた
めには、何をしたらいいん
だろう?

A小学校、B小学校とも、ゲームや場の工夫をする先には子供が自らの願いや問いを基に学んでいく姿を目指しています。そして、先生方がゲームや場の工夫を考えていく真ん中にあるのは、目の前の子供たち。いつもそこから始めたいですね。



研修の窓



なりたい教師像を真ん中に語り合う ～初任研 教師力向上研修Ⅰ(オンライン研修)～

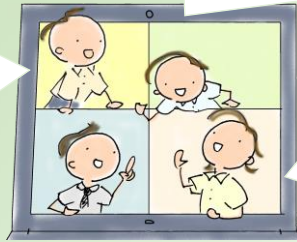
教壇に立って2ヶ月。6月7日に行われた初任研「教師力向上Ⅰ」では、慌ただしく過ぎる毎日にちょっと一息ついて、初任者の仲間たちと「1年後になりたい教師像」を思い描きました。

自分の現在地はどこですか？
そして、1年後、どんな先生になっていきたいですか？

現在地を見つめ

子供の顔を思い浮かべてみると、なんだか自分だけが焦って頑張っていたような気がします。子どもが考える授業になっていませんでした。

今までの2か月間で、自分を深く見つめる時間を設けられなかったです。一年後のことまでは考えられませんでした。



分からないことばかりで、とにかく仕事をこなすことばかりでクリエイティブな視点をもてていませんでしたね

道筋を探り



話を聞くことができる子供たちになってほしいんだけど、いつもクラスがざわざわしていて…どうしたらいいんだろう。

すごくよくわかります。私も聞こえるように大きな声を出すことが増えてしまっていて…



自分が話している姿を振り返ってみると、いいかもしれませんね。



それは考えたことがありませんでした。そう言われると、自分の話し方には、まとまりがないかも。子供たちが、ざわざわしているのに話し出してしまっているし…自分の話し方を見直してみようかな。

1年後を描く

現在の自分と1年後の自分を描く中で、少しずつでも成長していると思うことができました。1年後、子供のいいところをたくさん見つけられる自分になりたいです。

同じ悩みをもっている先生がいて勇気づけられたし、解決の糸口も見えたように感じます。子供たちが聞きたくなる話し方ができるようになりたいです。

同期の仲間や先輩の姿から学びながら仕事を覚えて、子供たちのために、分かる楽しいワクワクする授業を創造できる先生になりたいです。



自分を見つめ直してみると、頑張りすぎて視野が狭くなっていたことに気付いたという振り返りがありました。一息ついて現在地を見つめたり語り合ったりすることで、自己課題(目標)が見えてきます。そこから、新しい視点を得られたり、考えてもいなかった解決策が見つかったりしますね。



先生方の不安に寄り添う「ちょこっと相談会」を随時実施しています。ぜひお気軽にご相談ください。

研修の窓

CAN-DOを真ん中においた指導と評価 ～中学校外国語テスト改善研修～

自校で作成したペーパーテストの問題やパフォーマンステストの計画・内容・評価基準等を実際に持ち寄って研修を深めました。テスト改善の真ん中にあるのは「CAN-DO」でした。

アドバイザー 信州大学学術研究院教育学系教授 酒井英樹先生のお話から

CAN-DOとは？

外国語科の学習指導要領には、「学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること」となっており、学年ごとの目標は示されていません。そこで、各学校において、学年ごと5つの領域別に能力記述文の形で学習到達目標を定めています。それが「CAN-DO」です。



CAN-DOを核とした指導と改善はどうすればよいの？

【取り組みたい6つのこと】

- ① CAN-DOを見直そう・作ろう・改良しよう
- ② CAN-DOに基づき、3つの柱から成る資質・能力を具体的に想定しよう
- ③ 各学年で、どの力（領域）をどの単元で指導するか配当しよう
- ④ 各学年の各領域で、どのような評価（方法、評価基準など）を行うか検討しよう
- ⑤ 具体的な単元を取り上げて単元計画を検討しよう
- ⑥ 具体的な単元を取り上げて評価計画を検討しよう

CAN-DOで示す能力記述文（～について、～を用いて、～することができる）は、何を指導して、どういうところを評価したらよいかよく分からない。だから、単元の終末に、学期や年度の終わりに、生徒をどのような姿に育てたいかを具体的に考えることが大事になる。

テスト改善のポイントは？

- CAN-DO（学年ごとの目標）及びその3観点の評価の規準に基づいているか。
- 指導したこと（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）を評価しているか。

<研修会参加者の声>

- CAN-DOリストの活用が、授業改善やテスト作成において大変重要だと分かった。
- 生徒がCAN-DOを意識することで自身の学びが見えてくるのが具体的に理解できた。
- テストがCAN-DOと紐づいていることについて考えさせられた。

もし、行き先の分からない電車やバスに乗ったとしたら、とても不安ですね。「CAN-DO」は各学年における行き先。真ん中において指導・評価することで、子供も先生も向かう先が明確になり、日々の授業がより充実するでしょう。





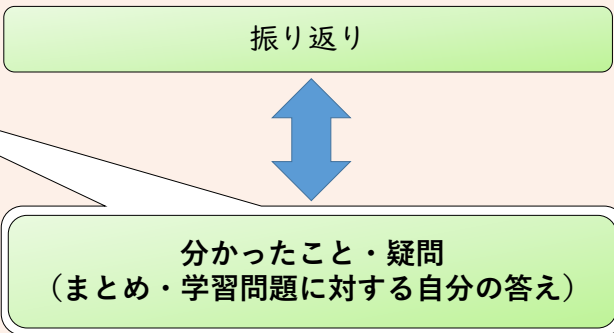
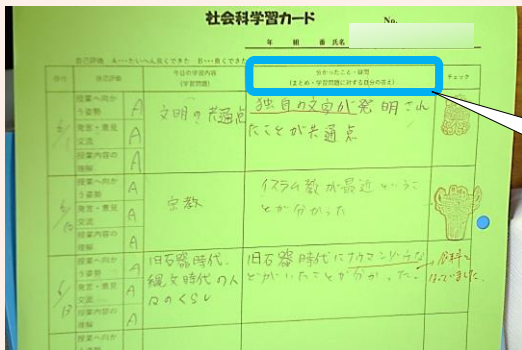
「振り返りを促すひとこと」を考える ～子供の記述を真ん中に～

授業の終末での「振り返り」を大切に位置付けた授業が増えています。その振り返りの時間、どんな言葉をかけて、子供たちに振り返りを促していますか？中学校社会科の学習カードを例に、「振り返りを促すひとこと」について考えてみましょう。



A先生

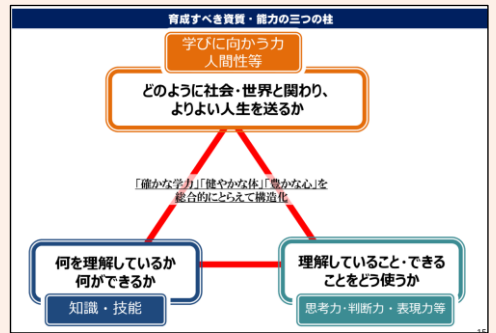
下のカードは、B先生が作成された、「社会科学学習カード」です。毎時間の振り返りを書いていくカードです。私も同じようなカードを使っていますが、「項目」の部分には、「振り返り」と書いています。ところが、B先生の学習カードには「分かったこと・疑問（まとめ・学習問題に対する自分の答え）」と、**複数の言葉が書かれています**。B先生、それはなぜですか？



B先生

授業によって、振り返りの観点が変わってくるからです。

「知識・技能」をねらった授業の時には、例えば「今日の授業でわかったことを書いてね」と振り返りを促す、「思考・判断・表現」をねらった授業の時には、例えば「資料や友達の意見を踏まえて、学習問題に対する自分の考えと理由を書こう」と振り返りを促すといったように、振り返りの観点を具体的に示して促しています。



A先生

B先生のお話を聞いて、ハッとしました。授業のねらいや、育成したい資質・能力の違いによって、振り返りを生徒に促す際の、教師の「振り返りのひとこと」は、**変わってくる**ということですね。確かに、「振り返りを書きましょう」と、漠然と自分が投げかけた際に生徒が書いた振り返りを読んで、「こういうことを書いてほしかったんじゃないんだけどなあ」「この記述からは、この生徒の学びを評価できないなあ」という思いになることがよくあります。**振り返りの際の自分の発問や、学習カードの項目などを、育成したい資質・能力との関係から、もう一度見直してみます！**

授業の最後に「振り返り」の時間を確保することが大切にされていますね。一方で、その『振り返りの「中身」』についてはどうでしょうか？大切な問いを、B先生の学習カードは投げかけてくれているように思います。



考える 部屋

夏休み明けに向けた心配り ～子どものつらさや苦しさを真ん中に～

夏休みが近づいてきました。子どもたちも先生も、ほっと一息…。しかし、長期休業明けは、子どもたちがつらい気持ちや苦しさを感じやすい時期でもあり子どもの命を守るための十分な心配りが必要です。

6月23日(木)、オンラインで「自殺予防に関する教員研修会」が実施されました。その中で、安曇野内科ストレスケアクリニックの飯田俊穂先生は、10代前半の自殺率が100年ぶりの高水準になっているとした上で、「子どもの違和感を感じる取ることを、過小評価しないで」と指摘されました。「あれ？この子、何かちょっとへんだな」という感覚を大げさだと思わず、職場で共有して下さい。子どもたちの近くにいる現場の先生たちだからこそ、できることだと思います。

夏休みがはじまる！

保護者にも相談窓口を周知し、見守りを促します。



LINE相談窓口「ひとりで悩まないで@長野」
7月～9月の水曜日に「ピア・デイ」を実施し、子どもたちと年の近い大学生が相談に対応してくれます。(18:00～20:00)

明日から学校！



誰もが多少、憂うつになりがちな一日。ICTを活用して、担任の先生がクラスルームにメッセージを送ってみるのもいいかもしれません。持ち物や日程を確認しつつ、さりげなく子どもたちの様子を探ることができます。電話より重くならないので、子どもたちに負担をかけずに心の準備を促せます。

夏休み明け



先生自身が元気をチャージして、笑顔で子どもたちを迎えてあげるのが一番です😊

①アンケートや個別面談
→悩みや困難を抱える
児童生徒の早期発見

②「気になる児童生徒」
の情報共有



【気を付けたい子どもの様子】

- ・関心のあったことに興味を失う
- ・集中力がなくなる
- ・不安が増し、落ち着かない
- ・投げやりな態度が目立つ
- ・身だしなみを気にしなくなる
- ・自己管理がおろそかになる
- ・身体の不調が長引く(不眠、食欲不振、腹痛など)
- ・自殺を口にする

「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」
文科省より「自殺直前のサイン」

【スクリーニング会議】の定期化が効果的です。

学年会や担当者会の一部を転用したり、共有フォルダにそれぞれ打ち込んで、要支援度を可視化したり、無理なく導入を。

※「スクリーニング会議」＝支援が必要かどうかを洗い出すチーム会議

自殺の危機が高い児童生徒・自殺未遂をした児童生徒が見つかったら【校内危機対応チーム】で連携を探ります。
管理職・養護教諭・生徒指導主事・相談係・担任等
SC・SSW

連携先：保護者・医療・関係機関(児相等)等

「子どもの自己有用感を高めてあげよう」とよく言われます。他の人の役に立つ行動ができること、そしてそれが周囲に認められること。夏休みはそのようなチャンスがたくさんあるとも言えますね。保護者の方とも連携をとって、夏休み明けに意識して、具体的な場面で子どもたちをほめてあげてほしいです。そして、まだまだ小さな、可能性に満ちた命が、失われることが決してないように、みんなで見守っていきましょう。

SSWの 笑門来福

SSWの不思議を
解説



スクールソーシャルワーカーは何処にいるの？ ～SSWの業務形態～

学校の先生方や関係機関の方から「いつも何処にいるの？」と聞かれることが多々あります。今回は、そんな疑問にお答えしたいと思います。

SSWとして勤めて数年がたちますが、今でも先生方から尋ねられることがあります。

「いつも東信教育事務所や市町村教委にいらっしゃるんですか？」と…。この質問にどうお答えしたらよいのやらと、しどろもどろになってしまうことも度々です。「どうして自分の勤務先なのに、しどろもどろになるの？」と疑問に感じられるかと思えます。この状況は、私たちの業務形態が関係しています。

【解説】

- 私たちSSWは、それぞれ年間の業務の配分時間が決められています。（Aさんは年間500時間、Bさんは年間600時間など）この配分された時間の中で、学校での面談、支援会議、受診同行、事務作業、移動時間等々を行っています。（1日の業務時間は上限7時間まで）
- 業務を行う場所は、事務所に出勤→学校で面談→事務所に戻るのではなく、

(例) 自宅→C学校で面談→D君の受診同行で〇〇医療センター→
E学校で支援会議→帰宅（自宅）

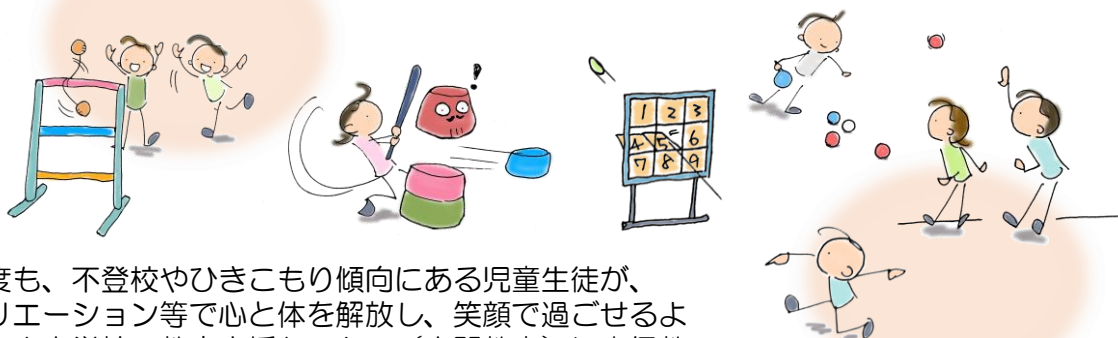
このような業務実態になります。

事務所や市教委にお電話をいただいた時に、不在が多くなってしまいます。ただ、連絡は常に取れるようにしていますので、お気軽にお電話ください。

1学期も終わり、夏休みとなり2学期に向けてしっかりとエネルギーを充電したいですね。お子さんや保護者の方々も困り事が表面化してくる時期です。ご相談はお早めにお願ひします。早期介入・早期解決です！



笑顔で元気アップ講座のご案内



今年度も、不登校やひきこもり傾向にある児童生徒が、レクリエーション等で心と体を解放し、笑顔で過ごせるように、小中学校・教育支援センター（中間教室）に東信教育事務所の指導主事が関わらせていただきます。

9月～2月の全12回予定。8月5日（金）までに、申込票（送付済）を東信教育事務所までご提出ください。toshinkyogakou@pref.nagano.lg.jp（担当）田中

佐久地区小・中学校PTA実践力向上研修 ～5月21日（土）オンライン開催～

どの子ども自分で歩いていきたい、分かっていきたい
～親になる・教師になる～

立科町教育委員会指導主事 中島 一彦 さん

<講演のお話から>

「持ち込む」

小学校3年生のAさんが教室にザリガニを持ち込んできました。Aさんはザリガニの餌について調べ、死んだカエルを食べることを突き止めました。ザリガニの餌にするためにカエルの頭をつぶして持ち込んだことで教室は紛糾します。

「かわいそう」「それはひどい」「気持ち悪い」「カエルの命」「ザリガニが生きるため」

ザリガニの体に触れ、カエルの肌をつかみ、教室で飼ってみようと思いついた子ども達を感じる命。そういういきさつとは少し離れたところで「大切な命」と口にする子ども達。そのやり取りを聞いて眉をひそめる子ども達。

やがて教室での飼育が位置づいていきます。水槽に小石が敷かれ、枯木が置かれ、ザリガニにとっての環境を配慮していく子ども達の姿。

「カエルの命」と声を上げた子どもが、はじめは触れなかったザリガニを持ち「わあ、固い、ドキドキする。ハサミが強そう」と話しました。

ザリガニの側にも自分を置き始めた子ども達ならではの命の歩み、そういう育ち。

Aさんの学級に入ってきたザリガニ。ザリガニがいることが学級の生活の一部となっていきます。お話から、「子どもが個々の生活を教室に「持ち込む」ことで、学級での生活が豊かになっていくこと。」「そこで織りなされる子ども達の生活（友との関わり、自己や友の変容の日々）に寄り添う教師の存在。」の大切さを教えていただきました。



<参加者の声>

- 「子どもは大人のつくり出す環境の中でしか生きられない」という言葉が心に残りました。親として子どものためにと考えてやっていることが最善策とは限らない。学校という環境で、たくさんの仲間の中で違いを見つめ直し、多くの経験を積んでいる学校教育のありがたさを改めて感じました。
- 「社会や自然との対話によって子どもは自分で考えて成長していく」というお話に大変考えさせられました。自ら経験すること、考えること、親としてそれを見守ることの大切さを考えさせられました。

仲間の姿を見て、困難に挑戦しようとする子どもの姿。人や自然、社会の事柄と対話することで子ども達の内側から創造性を生み出していくことの大切さ。子ども達が活動しながら、悩み、揺れ動く感情に折り合いをつけるなど、心の動きや、その経験を通した子どもの成長をお話いただきました。親や教師として、子どもとの関わり方を考えさせられる講演でした。

東信地区社会人権教育研修会 ～6月28日（火）オンライン開催～

人権教育推進委員の方、幼保小中高の学校の先生方など、東信地区の人権教育を推進していただいている皆さんに参加していただき、講演をお聞きしました。170名以上の方が参加し、研鑽を深めました。

人権は現場で起きている ～『人権教育』と、『人権ある教育』～

言語学者 堀越 喜晴さん

視覚障がいのある講師自身が、これまでの生活の中から感じた率直な思いを熱く語っていただきました。

障がい者だから必要以上に幼くみられる。貢献したいのに責任ある立場の仕事から外される。健常者が「助けてあげる存在」で障がい者は「助けられる存在」といった社会に存在する役割関係の固定化だけでなく、「されて当たり前」といった意識が障がい者自身にもあると鋭く指摘されました。

「人権はコミュニケーションの中こそ形を成すもの。互いに通じ合うものでなければならない」と堀越さんは話されました。みんながそれぞれの場所において、ぴったりといれる社会を作る活動そのものが人権。正解を教えるのではなく体感できる空気を作り出す大切さを教えていただきました。

<参加者の声>

人権＝コミュニケーション概念という言葉が胸に残りました。決めつけるのではなく、相手の気持ちを想像すること。相手に何が必要かを聞くこと。自分目線で行うことは相手にとって決して親切にはならないこと等を改めて感じました。

『性はいろいろ』～人の数だけ性がある～

川中島の保健室 白澤 章子さん
性教協長野サークル 若林 唯さん

講師の白澤先生からは生物学的な見地から、「心の性」と「体の性」の形成過程や、性的指向も本人の意思や興味で決まるものではないというお話をお聞きし、LGBTsへの理解がさらに深まりました。

また今回はスペシャルゲストとして若林さんにも来ていただきお話をさせていただきました。若林さんの幼少期からの経験や、その時の揺れ動く感情。若林さんの紡ぎだす言葉を聞きながら「性はいろいろ」という言葉が、胸に落ちる講演でした。

<参加者の声>

LGBTQという言葉がつい最近まで聞いていた言葉でしたが、その言葉が日々少しずつ変わっていきびっくりしました。ですが、人の数だけ性がある、というのは若林さんの話を聞いてすごく納得のいく話でした。

「健常者」「障がい者」「マジョリティー」「マイノリティー」に分けて当てはめるのではなく、「違いがあるのが当たり前」という意識に立つことの大切さを教えていただいた研修会でした。

